



気候変動と環境経営(1)

地球温暖化から地球沸騰化へ

10 月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2025 年 10 月 11 日(土)

2023 年 7 月が観測史上最も暑い月になる見通しが発表された。その日 2023 年 7 月 27 日、国連のグテーレス事務総長が「地球沸騰化(Global Boiling)の時代が到来した」と極めて強い警鐘を鳴らした。

これまでの「温暖化(Global Warming)の段階」から、気候変動の影響が待ったなしの危険な段階への突入を強調したものである。「温暖化」にはまだ猶予が感じられるが、「沸騰化」は今すぐ、刷新的かつ抜本的な対策が必要であることを示している。グテーレス事務総長は、「化石燃料から得る利益、と気候変動に対する不作為のレベル(猛暑、台風、干ばつ、大雨、洪水、山火事など)を受け入れることは到底できません」と述べ、化石燃料への依存を強く非難した。このメッセージは、パリ協定で掲げられた 1.5℃目標達成の道筋が危うくなっているという強い危機感の表れである。

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)においても地球温暖化の原因は「人間の活動によることは疑う余地がない」と断言され、気候変動への対策は、それを招来した人類が対処するしかない。傍観者でいられる筈はなく、事後の対処では遅く、全人類による事前の予防を行うべきである。

会計開示と統合報告書を企業が責任を持って、社会の変革を行うキー(誓約)になるとして「情報公開」を考えてみた。

「ミジェー アラテー ヌマラン(水は洗っても飲めない)」とは沖縄の方言である。汚染、誤った行動、取り返しがつかないことを止めることを肝に銘じたい。

ちょうど今朝、朝刊を見て「公明、連立離脱へ」という題字に目が行った。透明さを欠く連立ではなく双方の純粋さの主張であるべきだ。

また、ノーベル化学賞で二酸化炭素を大量に分離、貯蔵できる夢の吸着剤の実用化の可能性も報じられていた。やはり物語の根本には利害の混合しない純粋さが重要である。